

しれとこ産業まつりに参加 ～木の葉当てクイズが盛況でした！～

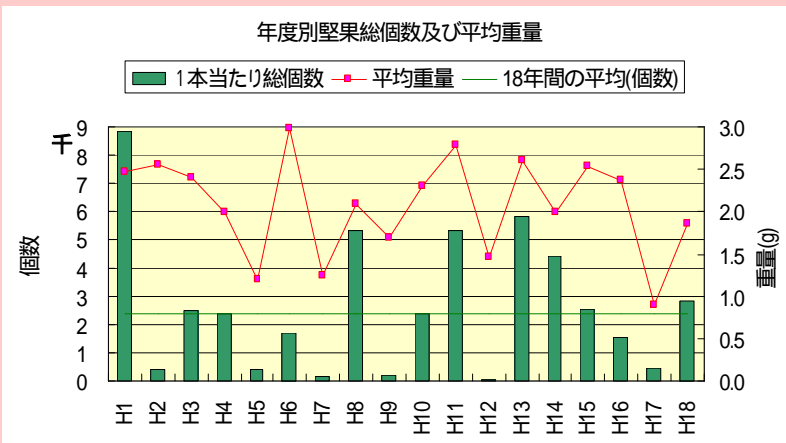
9月24日(日)に第27回しれとこ産業まつりが斜里町みどり工房で開催されました。好天に恵まれ、およそ3万人の人々が集まり賑わいを見せたなか、当センタ-からは、数年ぶりに復活した木の葉当てクイズのほか、恒例の丸太切り体験、火おこし体験等を実施しました。木の葉当てクイズでは、予想以上に人が集まり、12種類の木の葉を貼ったボードの周りに人々が集まり図鑑をみたり周囲の木をみたりと、最終的に200名近くの参加を頂きました。子供だけでなく多くの大人が真剣にクイズに取り組む姿が印象的でした。また、丸太切り、火おこし体験はいつものことながら順番待ちの状態でご子達、中にはお母さんが汗をかきながら挑戦して切った木を持ち帰っていました。身近な森林に目を向けてもらえる良い機会になったと思います。



この葉は何の葉？

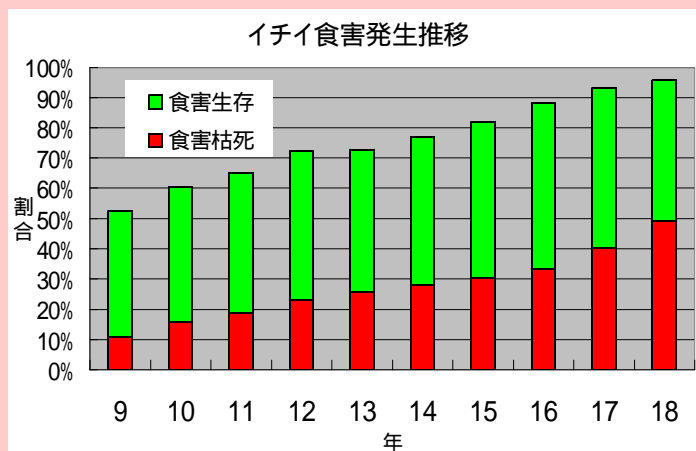
今年の調査結果が出ました

- 堅果(ドングリ)結実調査 -



知床半島の主要な樹種であるミズナラの生態を調べるため、ドングリの結実を計測しているこの調査。昨年は5年ぶりの凶作となりましたが、今年度の結果はグラフのように、過去18年間の平均値に近い並作となりました。ただ、2つある調査区のうち、イタシュベツ地区ではあまり堅果が回収されず、地域的なバラツキも確認された年となりました。

- エゾシカ樹皮食害調査 -



イチイ遺伝資源保存林にて、エゾシカの食害の程度を継続的に計測しているこの調査。毎年春に食害木、秋に枯死木の調査を行っています。昨年時点で既に93%のイチイに食害が認められていましたが、今年は新たに18本に被害が確認されて、イチイ全体(724本)の96%に食害が及ぶ結果となりました。枯死木も新たに65本発生し、結果としてほぼ半数のイチイが枯死しています。今後は、平成12年から取り組んでいる樹皮食害防除の為に網巻きを進めてい

く他、稚幼樹保護の観点から面的に保全する防鹿柵の設置など、遺伝資源保存林の役割が維持できるような対策方法を考えていく必要があります。

知床の森から



平成18年11月発行 第104号

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp>



(写真：知床連山)

知床は今

11月に入り、知床では平地でも初雪が観測されました。例年と比べて暖かい日が続いた今年、10月中旬に冠雪した知床連山も融けては降ってを繰り返し、その間に紅葉も終わって山もすっかり冬山仕様になってきました。

さて、大勢の観光客で賑わった知床も、春から秋の観光シーズンを終えようやく静けさを取り戻してきています。11月7日には知床横断道路が冬期閉鎖に入り、知床五湖へ至る道道も11月27日には通行止めとなります。

前号でも触れましたが、世界遺産登録一周年を迎え、観光客が激増するかと思った今シーズン、統計上では7月から10月のハイシーズンは観光客入込み数が前年度を下回る結果となりました。羅臼岳登山や羅臼湖といった利用が目立つ場所も同様の傾向が確認されています。とはいえ、一昨年の入込み者数と比べればやはり今年の方が多きことから、観光客が減った、というよりも昨年の増加ぶりが異常だった、という言い方が正しいように感じます。人が集まる場所の混雑ぶりは相変わらずで、知床一の観光スポット知床五湖では駐車場待ちの渋滞や、踏み荒らしによる散策路の拡幅といった現象が昨年同様確認されたそうです。一方で、4月から6月という比較的訪れる人が少ない時期の入込み者数は対前年比15%増となっており、来訪時期の分散化という点では良い傾向が現れているようです。そんな中、今年は私達がよく利用する知床自然観察教育林でも、自然ガイドに



観光客で賑わう知床五湖



利用上の注意を掲示しました

引率された少人数のグループを多く見かけました。原生的な森林の雰囲気を感じる事の出来る場所が少ない知床において、じっくりと時間をかけて森林散策を楽しむことを希望する人が増えているように感じました。知床はヒグマが高密度に存在する場所だけに、対処方法をわきまえたガイドに案内してもらうことは安全対策上も有効です。森林を外から眺めるだけでなく、実際に中に入って観察することは森林への関心を高め、理解を深めてもらうために重要なことです。そのような活動が今後も適切に、かつ円滑に行えるよう、環境整備等に取り組んでいきたいと思ひます。

第63回森とのふれあい

オシンコシンから弁財崎へ古の道を歩こう

～ 樹名当てクイズを行いました～



オシンコシン高台からウトロ高台まで伸びる今は使われていない旧国道沿いに広がる原生的な森林を散策する今回のイベント。10月15日（日）に実施したのですが、シトシトと雨が降り続くあいにくの天候となりました。現地は世界自然遺産区域からは外れますが、ミズナラやトドマツ、ハリギリ、イタヤカエデ、カツラなど知床でよく見られる様々な木の種類があり、鬱蒼とした森林は遺産区域に匹敵する雰囲気です。

コース途中では木の葉や樹皮、木の実などの特徴を解説をしながら樹木クイズを実施しました。参加者の皆さんは頭をひねりながら木の葉や樹皮を見たりヒントを聞きクイズに取り組んでいましたが、ミズナラの大径木の太さを当てるクイズでは「直径が1m20cmもあり、大体400年近い樹齢と思われま

す」との説明に、参加者の中には御利益があるかもと木に寄り添う方もいました。

コース沿いにはトドマツの幹に残るヒグマの爪痕やクマゲラの食痕も観察して頂きました。クマゲラの食痕前で実物大のイラストを見て頂いた時には、「こんなに大きいんですか」との感想も聞かれました。また、エゾシカに樹皮を食べられた木々が目立つ場所では、当センターで行っているエゾシカ食害調査について説明し、調査区内のイチイ全体の96%が食害を受け、その約半数が枯死し、被害を防ぐために網を巻いている事をお話ししました。当初の予定では、樹皮食い防止の網巻きも体験して頂く予定でしたが、雨脚が強く残念ながら取りやめとしました。しかし、参加者の皆さんは周りに点在する食害木を見て、その被害の深刻さを理解してもらえたようでした。森林の中は実りの秋らしく、キハダやホオノキ、ヤマブドウが実りの時期でした。樹木当てクイズや木の実を観察することで身近な樹木や自然に関心を持って頂くきっかけになって頂ければと思います。



ミズナラの大径木に感動！

道民森づくりネットワークの集い

ポスターセッションに参加

10月28日（土）に札幌赤レンガ庁舎前庭において森と木と人との繋がりをテーマにした道民森づくりネットワークの集いが開催され、当センターからは調査活動とクイズによる知床の紹介をポスターにして参加しました。

当日は秋晴れの中、数多くの団体が集まり各々が取り組んでいるボランティア活動の紹介や木の葉当てクイズ、木工細工等の展示が並んだ他、ペレットストーブの紹介やツリーライミング・薪割りなどの体験コーナー、キノコ汁の試食など様々な催しが開かれ、多くの人が集まり自然とのふれあいを楽しんでいました。当センターのポスターは知床森林センター内の展示室に掲示中なので、興味のある方は足を運んで下さい。



第64回森とのふれあい

森の恵みのクリスマスリース作り

～ トドマツの香り溢れるリースが出来上がりました～

クリスマスまであと1ヶ月。街中にも賑やかな飾り付けが目立つ時期になってきました。そんな中、ここ数年の恒例行事となったリース作りイベントを11月19日（日）に実施しました。参加者は24名、リース作りということで大半が女性でしたが、親子での参加も何組かいらしたほか、ご夫婦で参加された82才の男性（最高齢）もいらっしゃいました。講師は、斜里町で生け花教室を開かれており、毎年このイベントの指導をお願いしている古川範子先生です。



参加者は午前9時に知床森林センター2階会議室に集まり、まず手順の説明を受けた後、トドマツの枝から適当な大きさの枝先を切る作業に取りかかりました。部屋の中にはトドマツの爽やかな香りが漂う中、談笑しながら作業を進めていると、あっという間に机の上には枝先がうずたかく積み上げられてきました。職員から「トドマツの香りはフィトンチッドという揮発性成分によるものですが、これにはリラックス効果があります。森林浴をしているのと同じです。」との説明に、「いい香りだと

適当な大きさに切り分けます 思ったわ。」との声が上がっていました。

切り集められた枝先は、ひとつかみ程度に束ねられ、針金のリングに縛ってリースリングを完成させました。その後はリボンやベル、松ぼっくりなどで飾り付けを施し、豪華なクリスマスリースが完成しました。作業時間は約3時間。あっという間に過ぎてしまいましたが、天然の素材からリースを作り上げる行為に対して参加者の方々の満足した笑顔を多く見ることが出来て、山の恵みを身近に感じてもらえました。皆さんからは、「自然の素材で季節感のあるものが手作りできて良かった。」「早速家に帰って玄関に飾り付けます。」との感想がありました。



完成品です

ネイチャーゲーム講習会を開催

今後の活動に活かしていきます

森林環境学習の取組にあたって、大人と子供ではアプローチの仕方が異なりますが、子供に対して理屈より直感的に自然を感じてもらえる有効な手段の一つがネイチャーゲームです。そこで11月9日（木）、北海道ネイチャーゲーム協会理事長であり、ネイチャーゲームインストラクターでもある松田利一氏（旭川在住）を講師に招いてネイチャーゲームの職場内講習会を開きました。ゲーム自体は大勢で行うことが効果的であるため、広く参加を呼びかけたところ、センター職員の他、常呂川森林環境保全ふれあいセンター、網走南部森林管理署、斜里町役場職員が加わり計7名で実施しました。役場庁舎裏手の公園で行った講習会では、講師の解説の下、何種類かのゲームを実践し体験することで、ゲームの意図している目的などを学んだほか、企画立案に当たっては下見を十分に行うことや、自然との「わかちあい」の心を持つこと、などの指導を受けました。これを機会に今後の活動にもネイチャーゲームを取り入れて今回の経験を活かしていきたいと思っています。



講習会の様子